蚊

しと取付て、さしくひなどしけれども、ちつとも身をもはたらかさず、七日まではおきあがらず、

〔宇治拾遺物語七〕蝎一ふめきて、かほのめぐりにあるを、うるさければ、木のえだをおりて、はらひすつれども、猶たゞおなじやうに、うるさくふめきければ、とらへてこしを、このわらすぢにてひきくゝりて、枝のさきにつけてもたりければ、腰をくゝられて、ほかへえいかで、ふめき飛まはりけるを、長谷にまいりける女車の、まへのすだれをうちかづきてゐたるちごの、いとうつくしげなるが、あの男のもちたる物はなにぞ、かれこひて、われにたべと、馬にのりてともにあるさぶらひにいひければ、その侍、その持たる物、若ぎみのめすにまいらせよといひければ、ほとけのたびたる物に候へど、かく仰事候へば、まいらせ候はんとて、とらせたりければ、このおとこいとあはれなる男なり、わかぎみのめすものを、やすくまいらせたる事といひて、大柑子をこれのどかはくらんたべとて、いとかうばしきみちのくに紙につゝみてとらせたりければ（下略、又見今昔物語雜談集、）

〔倭名類聚抄十九蟲多〕蚊　四聲字苑云、蚊音文、和名加、小飛蟲、夏月夜噬人者也、

〔箋注倭名類聚抄八蟲名〕説文、蟁齧人飛蟲、又載蚊字云、俗蟁从虫从文、爾雅翼云、蚊者惡水中子子所化嗜人肌膚、其聲如雷、東方朔隱語、長喙細身、晝亡夜存、嗜肉惡煙、爲掌指所捫、

〔類聚名義抄十虫〕蚊正文カ　クチフト　食人、夏夜飛虫

〔下學集上氣形〕蚊カ　也、又云ニ豹脚ヒタイシロノヘウキヤク、

〔增補下學集上氣形二〕額白豹脚蚊異名也

〔書言字考節用集五氣形〕蚊カ暑蟲、白鳥、並同、爾雅翼、惡水中子子所化、豹脚ヤブカ　蟄蚊同俗字

〔日本釋名中蟲〕蚊カ　かむ也、人のはだへをかむ虫也、むを略す、

〔東雅二十蟲多〕カとは囓也、カブレといひ、カユシといふが如きは、此物によりていひしと見えたり、豹脚は今俗に、ヤブカといふもの是也、